

KINO 徒然通信

2024. 5

みなさまへ

桜の季節が例年より早くやってきて、北海道の一番気持ちの良い季節が始まりお散歩日和ですね。初夏にかけての新しいムービーラインナップ144号が出来ました。

5月3日から始まったのは濱口竜介監督の最新作「悪は存在しない」、ヴェネチア国際映画祭銀熊賞(審査員グランプリ)受賞作品です。たくさんの皆さんにご覧いただいています、ある日見終わったお客さまが「わからない、最後、どういことなのか教えて」と直談判のような。確かにラストのシーンでは「これは何?」と、驚いて戸惑われる方もいらっしゃるでしょう。久しぶりにこんな作品に出会って嬉しくなる方もいらっしゃるかも。

「きっと、答えはここにはないのでは? ご覧になった方が一人一人、こうなのかな? こういことかな? といろいろ考えてくださるような、そんなふうにお客さまを信頼している作品なのでは、と思います。わからない、気になる、う〜ん、というような気持ちをかかえていろいろ考えて、何かを感じてゆく作業は、思いのほか楽しいものですよ」といようなお話すると「う〜ん、よくわかんないけど、考えてみます」といって帰って行かれました。

もう1回見ようって思っただけいたら嬉しいな、と思ったりしました。

前回ご紹介できなかったアグニエシュカ・ホランド監督の「人間の境界」(只今上映中)はいま世界で何が起きているのか、その一端をリアルに私たちに届けてくれた渾身作です。

ポーランドの巨匠と言われるホランド監督が政府を告発してもその真実を知らさなくては、さらに大きな悲劇が起きてしまう、そんな危機感に、賛同して集まったスタッフたちによってつくられました。ご覧になった皆さんは「こんなことが…」と衝撃を受けてパンフレットを買われる方も多く、国境とは、人間としての尊厳とそこにある境界について考えるきっかけになるのではと思います。只今上映しているタルコフスキーの「ノスタルジア」(5月16日まで)でも、「私たちはどうしたら理解しあえるの?」という問いに男は「境界が、国境がなくなれば」といような台詞がありました。80年代の作品ですが、今まさに私たちが世界の変容の中で直面していることに繋がっているように思います。ホランド監督は「映画は無力ではありません」と語り、様々な違いを受け入れてゆくことから理解が始まると。

世界を大きく変えてしまった一人の科学者の葛藤を描く「オッペンハイマー」、哀悼の気持ちを込めて「フジコ・ヘミングの時間」を、ともに6月8日〜上映です。

「ミセス・クルナスVSジョージ・W・ブッシュ」ではドイツに暮らすトルコ移民のお母さんが無実の息子を救おうと、根っからの明るさでアメリカ合衆国相手に闘う感動の実話です。

試写を見て今年の夏は「クレオの夏休み」で決まりと思いました。5歳の少女の繊細な、世界を見つめるまなざしに心を鷲掴みにされました。ぜひ出会ってくださいね。

6月1日〜は新しい会員証になりキノの新学期です。そして7月4日、キノは32歳に一

2024年5月

シアターキノ支配人 中島ひろみ